

## 疫病と陀羅尼聖典

—聖典のなりたちと「呪文効能定型句」

菊谷竜太（高野山大学）

5        ブツダのような聖者あるいは神的存在を除き病魔は一般に把捉されえない。変幻自在で業のはたらきによって忽然とあらわれ、特別な知覚をそなえたものによってのみ捉えられるからである。空中を跋扈し人から人へと憑依しつつ人間の精気を奪う悪霊たちは非常にマイクロな存在とされた。ヴァイシャリー疫病説話に登場する鬼霊たちの出自は一説にはヒマラヤあたりであったという。鬼霊の出自とならび注目されるのが、陀羅尼・真言の前後に置かれ、除災・治癒  
10        など呪文の効果を祈願する定型句である。ヴァイシャリーの疫病退治に際してアーナンダがブツダから呪文とともに受け取った偈頌もそうした類の一つである。たとえば、次の『佛母大孔雀明王経』*Mahāmāyūrī*の一節は鬼霊と病との関係をよくあらわしている。

15        「一日熱、二日熱、三日熱などの間歇熱や常時熱、鬼霊・人畜由来の熱病、風性・胆性・粘性あるいはその合併症を原因とするあらゆる熱病、あるいは疫病・憑依・中毒・災難・恐怖のすべてにあたらぬようにせよ」<sup>1</sup>

上記の定型句で注目されるのは、熱病などの諸病とともに疫病・憑依・中毒・災難・恐怖とが同一文脈で語られる点にあり、「居住地の破壊 (*janapadoddhvaṃsa*)」などの伝統医学の内容とも  
20        繋がる。呪文の効能を祈願する定型句すなわち「呪文効能定型句」には<sup>2</sup>、性格上病名あるいは医術に関わるさまざまな術語が組み込まれ、それら定型句の伝承・編纂過程を辿ることは医学史上の観点からも見過ごせない。

かような視点にもとづき、本発表では「五つの防護聖典 (*Pañcarakṣā*)」のひとつに数えられる『大護明陀羅尼』*Mahāmantrānusāriṇī*ならびに同聖典に対するカルマヴァジュラ (\**Karmavajra*,  
25        10世紀後半-11世紀初頭)の『十萬注』\**Śatasahasraṭīkā*とを中心にこれまであまり注目されることがなかった陀羅尼・真言と「呪文効能定型句」との関係に注目しつつ、陀羅尼聖典のなりたちとともに、聖典注釈者たちが聖典をどのように理解しさらに聖典の編纂に関与していたのかを明らかにしたい。

キーワード：①陀羅尼聖典、②呪文効能定型句、③「パンチャラクシャー (*Pañcarakṣā*)」

<sup>1</sup> 田久保 [1972: 28.20-29.05] にもとづき、一部を抜粋・訳出した。この『佛母大孔雀明王経』*Mahāmāyūrī*定型句にはアーユルヴェーダの三病因説とともに四大元素を軸とする四病因説の痕跡も並行して見出される (菊谷 [2021])。

<sup>2</sup> 本発表でもちいる「呪文効能定型句」とは「達成偈 (*siddhagāthā*)」にもとづく発表者の造語であり、安樂偈 (*svastigāthā*) あるいは聖言偈 (*ārṣagāthā*) のように偈頌で構成されるものと散文で伝えられるもののどちらも含まれる。